アーカイブ室新聞　(2012 年 7 月 20 日　第 614 号)

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室　中桐正夫

＊元東京天文台測光部のマイクロフォトメーターの里帰り－その 1－

1957 年 7 月 1 日～1958 年 12 月 31 日、国際地球観測年(International Geophysical Year、略称:IGY) という事業が国際的な協力で行われ、オーロラ、大気光(夜光)、宇宙線、地磁気、氷河、重力、電離層、経度・緯度決定、気象学、海洋学、地震学、太陽活動の 12 項目の観測が行われた。日本もこれに参加し、この中には天文学に関係した事業が多く含まれており、当時の東京天文台にとって大事業であった。当時のソビエト連邦とアメリカ合衆国が人工衛星・スプートニク 1 号とエクスプローラー1 号を打ち上げたのは、この国際地球観測年のためであった。この国際地球観測年の主な成果は、バン・アレン帯の発見、中央海嶺、プレート・テクトニクス説の確認作業などであった。

（写真 1）

元東京天文台測光部はオーロラ、大気光（夜天光といった）の観測をしており、この国際地球観測年に参加していた。その当時、オーロラのスペクトル解析のため導入されたマイクロフォトメーターがこの世に存在していた。その後、測光部の斎藤馨児氏に師事していた方が、東京天文台が廃棄した測光部のマイクロフォトメーターを譲り受け保管されていたのである。この情報は国立科学博物館の天文担当の洞口氏から得られ、現在の所有者の小関氏から写真提供を受けた（写真 1）。

そこで、国立天文台天文情報センター・アーカイブ室としては、現在の所有者の小関氏が使用する予定もないということなので、譲渡していただくことにした。

マイクロフォトメーターはかなりの重量物なので、重量物輸送業者にその輸送を依頼してあるが、まず第 1 便として小関氏が保管していた附属品一式が届いたので、その報告をしておきたい。

2012 年 7 月 20 日　小関高明氏から送られてきたもののリスト

１）マイクロフォトメーター用ペンレコ（GALVANOGRAOH HR101）　１個（写真 2）

２）附属品の缶（中には、FUJI Exciter LAMP 箱入り 11 個、紙に包まれたもの２個

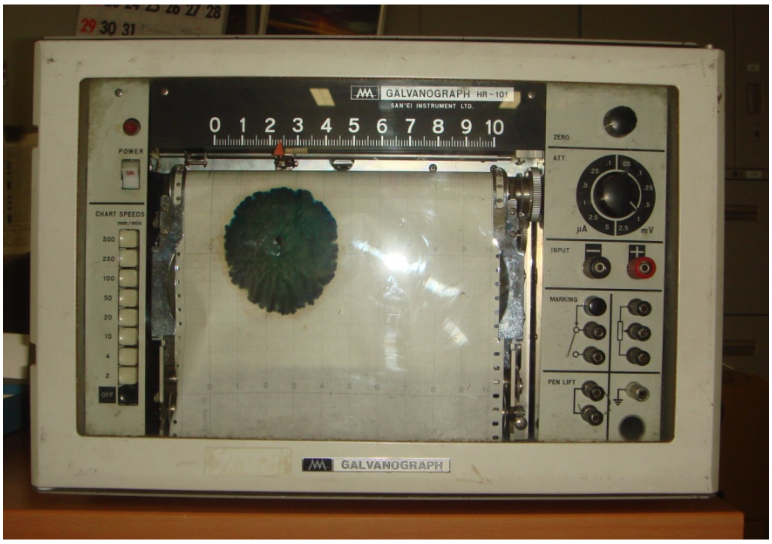

写真 2　ペンレコ

３）チャート　CHART No RR24002　13 本

４）マイクロフォトメーター説明書ファイル(写真 3)

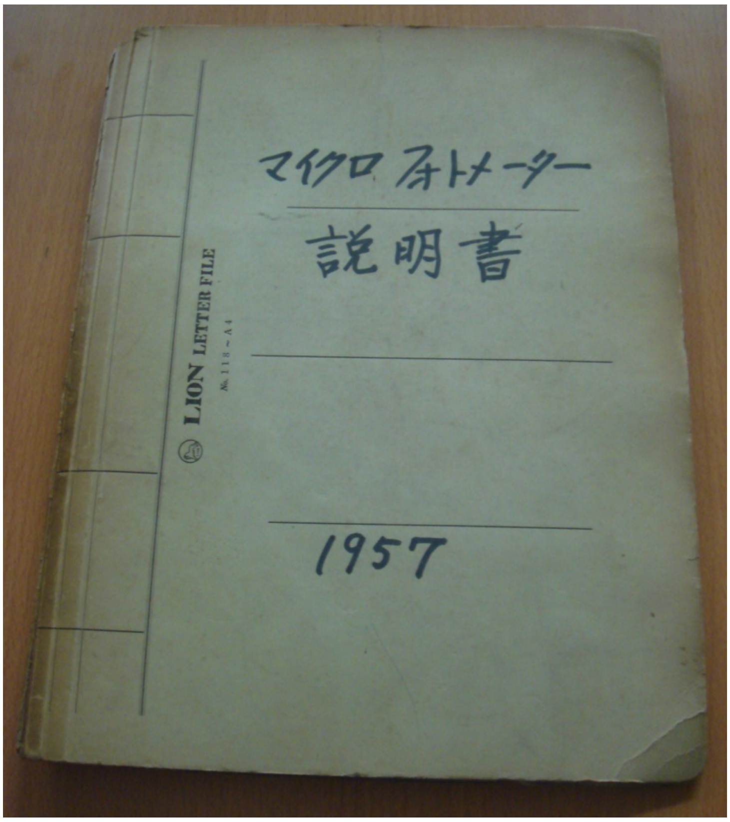

写真 3　1957 年と書かれたファイル

１.　表紙：マイクロフォトメーター　説明書　1957

２.　株式会社ナルミ商会　成澤重之氏の名刺

３.　マイクロフォトメーター見取り図(セクションペーパーに書かれたもの)

４．　顕微鏡の像の撮影装置の写真１枚
５．　マイクロフォトメーターの概念図（セクションペーパーに書かれたもの）
６．　メモ：倍率 lever 1:1　と書かれたもの
７．　古畑正秋宛即日配達便封筒　昭和 31 年 5 月 9 日の消印がある。
８．　NLM-MIC2 型　顕微鏡撮影装置　説明書
９．　NLM-MIC3 型　顕微測光写真装置　説明書
１０．顕微鏡写真撮影用照明装置　エフェクトライト NT-2 型取扱説明書
１１．メモ：非常に簡単な光路図
１２．メモ：電気回路などを議論した時のもの？
１３．ミクロフォトメーター見積書(『650,000 円』)ナルミ商会
１４．古畑正秋氏宛手紙１枚
１５．ミクロフォトメーターNLM-Ⅱ型　説明書
１６．オーローラ用マイクロフォトメーター　IGY　オーロラ用と書かれた封筒１枚
１７．天文台ミクロフォト回路図（セクションペーパーに書かれたもの」
１８．オーローラ用マイクロフォトメーター　説明及び仕様書　青焼き 3 枚
１９．NLM-Ⅱ型　ミクロフォトメーター　説明書
２０．NLM-DM2　菓子部ダブルモノクロメーター説明書
２１．Ｂ４サイズの原稿用紙に手書きされた「Microphotometer for Sensitometry 附属 Amplfier　取扱説明書　昭和 32 年 10 月 15 日付」6 枚もの
２２．キャラクトリックカーブが焼かれた印画紙　１枚
２３．マイクロフォトメーターの仕様について議論(?)したメモ　１枚
２４．セクションペーパーに書かれた図（内容不明）
２５．露光量を検討したグラフ（セクションペーパーに書かれたもの）

写真 3 のファイルの中身も興味深いが、今回はそのリストの紹介にとどめ、マイクロフォトメーターが到着してから記事にしたい。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp